

神戸旧居留地の歩み

日本屈指の風格あるまちなみができるまで

神戸ルミナリエの会場ともなる旧居留地の魅力を、紹介。
ルミナリエが点灯するまでの日中は、ぜひ旧居留地のまちなみを探訪してみよう。まずは歴史から辿ってみよう。



居留地海岸 「神戸写真帳」 明治中期（神戸市立博物館蔵）

1868（慶応3）年、神戸港開港当時は、砂地と田んぼだったという旧居留地。開港とともに、外国人のための住居や通商の場となる地が、海岸沿いにつくられた。計4回の競売によって、126区画の土地すべてが売却され、居留地全体の景観が整ってきたのは、1875（明治8）年頃になってからだという。

居留地の造成は、ジョン・ウィリアム・ハート（イギリス）の設計に従って、街路、街路樹、公園、街灯、下水道などが計画的に整備されていった。当時の英字新聞『The Far East』は「東洋における居留地としてもっとも良く設計された美しい街」と高く評価している。現在も、旧居留地の街路はその当時のまま残されている。

居留地造成工事が遅れているのをカバーするために、居留地の周辺にも居住が認められたのが雑居地で、現在の北野町、山本通、元町通などのエリアにあたる。そのため、多くの外国人が日本人とともに住むことになり、さまざまな交流が生まれた。雑居地の中で、華僑の人々が住んでいた地



なり、ますます繁栄した。

返還後、この地には日本人が入り込み、神戸のビジネスの中心地として発展を続けた。第一次大戦が勃発すると、世界的に船が不足し、神戸の造船業界は好景気にわいた。1925（大正12）年には、関東大震災が起き、横浜港で扱われていた生糸などの輸出入品が神戸港に運ばれるように

を打破して法権を回復した最初の改正条約・日英通商航海条約が締結されたことにより、1899（明治32）年7月17日、居留地返還式が行なわれた。居留地は日本政府に返還され、通りにには、新たに名前がつけられた。「京」「江戸」などの日本の都市名「明石」「播磨」などの兵庫の地名などがあてられ、今も町名に残る。

は、居留地の少し西側にあり、今は「南京町」と呼ばれ、中国料理店が建ち並ぶ。明治の中期以降、港を見下ろす山の手には、住むための洋館を建てる外国人も増えていった。これが、北野の異人館街。造船業の発展に寄与したE・C・キルビーやE・H・ハンターも居留地に事務所を構えた（ハンターの物語は、作家の三条杜夫さんにより、本誌でも連載中）。六甲山を開いたA・H・グルームや、「日本精神」などの著作で知られたモラエスも居留地で活躍。またラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は、新聞の論説委員として神戸に来たが、伝統的な日本文化を愛したハーンは、西洋そのものの居留地は気に入らなかったようだ。



居留地風景（Division STREET KOBE）
C.B.バーナード筆 1878年
（神戸市立博物館蔵）

Division Street Kobe 1878

C. B. Barnard



神戸海岸繁栄之図 二代長谷川貞信画
明治4年ごろ（神戸市立博物館蔵）

昭和初期の名建築として名高い、東京銀行（旧横浜正金銀行）神戸支店を改築した神戸市立博物館（写真は横浜正金銀行神戸支店の外観）



居留地海岸「神戸写真帳」明治中期（神戸市立博物館蔵）

しかし第二次大戦により、日本に住む外国人たちの活動は大きく衰退し、祖国に追われる者も多かった。1945（昭和20）年の神戸大空襲では、旧居留地も大きな被害を受けた。

戦後、高度経済成長とともに東京一極集中の傾向が強まり、旧居留地にあった企業の多くが、本社を東京に移し、ビルの空き部屋が目立つようになる。しかしその後近代洋風建築が見直され、古い建物に新しいブティックや飲食店が入るようになり、それまでのビジネス街としてだけではなくショッピング街としての新しいにぎわいが取り戻された。

そんな中で、1995（平成7）年、阪神・淡路大震災が起きた。旧居留地地区内のビルのう

ち22棟が解体せざるをえないまでの甚大な被害を受け、全壊したビルの中には、居留地時代の建物で唯一残されていた十五番館（平成10年復元竣工）、海岸ビル（平成10年外壁復元竣工）、大興ビル（解体）、明海ビル（解体）などの近代洋風建築も含まれていた。

震災後、復興にあたり、まちなみづくりのための約束ごとが取り交わされた。神戸市による「都市計画」を受けて、旧居留地にオフィスをかまえる企業や店舗など百数社で構成される旧居留地連絡協議会では、まちの将来方向を設定する「旧居留地／復興計画」を、1997（平成9）年にはこれを実現するために各ビルが担うべき役割を整理した「神戸旧居留地／都心づくりガイドライン」を会員各社の合意のもとに策定した。それによると、「にぎわいと風格ある中枢業務地」をまわりのトータルイメージとしてあげ、旧居留地の歴史に流れを断ち切ることなく、なおかつ時代の要求に応じた先端性と、それまでつちかかってきた伝統がうまく調和したまちなみづくりが提案されている。ビル建設、改築、造築にあたっては、高品質で、個性的で優れたものであることが求められる。そして入居するテナントとして、高級ブランド店を積極的に誘致。その結果、現在のような、伝統的な建物にブランドの最新コレクションが並びなど、新旧が混在したおもしろさ、風格がありながらやすらぎのある「大人が楽しめるまち」が形成されたのである。（参考文献「神戸居留地」旧居留地連絡協議会）



百年以上の星霜をへて、
現存する神戸最古の洋風建築物

「十五番館」



国指定の重要文化財に指定された、復旧工事後の「十五番館」

旧居留地の象徴といえ、重厚な石造りの建造物が建ち並び光景。その中にある、浪花町筋の一角に、木骨煉瓦造りの洋館がいつそう目を引く。2階の南面にベランダをもつコロニアルスタイルで、柱頭飾りのある柱列が印象的である。1880（明治13）年頃に建設され、翌年から10年間、アメリカ領事館として使用された「十五番館」である。神戸市内でも最古の洋風建築物として、旧居留地で当時の面影を残す唯一の商館である。

1966（昭和41）年、株式会社ノザワの故・野澤幸三郎氏が、この洋館を大変気に入り、本社として利用することとなった。1989（平成元）年に重要文化財の指定を受けたことを機に、翌1990（平成2）年から保存修理工事を開始し、工事完了後は文化財の活用を目的にチャイニーズレストランとして人気を博した。「文化財は活用しながら保存していく」という当時の社長・野澤太一郎氏の方針でもあった。

しかし、平成7年、未曾有の大震災が神戸を襲った。この歴史的建造物は跡形もなく崩れ去った。



阪神・淡路大震災で全壊した「十五番館」

幸い兵庫県、神戸市の迅速な対応により、倒壊した木材は、盗難や風雪にさらされることなく保管することができた。このことが歴史的建造物の復旧のきっかけとなった。「昭和になってコンクリートで再建された大阪城ではなく、徳川時代より在りし日のまま保存されている姫路城を」と、野澤太一郎氏は文化庁の調査官とのやりとりを「旧神戸居留地十五番館裏話」の中で綴っている。



明治19年のアメリカ領事館時代の「十五番館」

そして、国・県・市からの補助を受け復旧工事を開始。倒壊前の部材70%を使用し、また文化財修理では今まで見られなかった免震工法を採用して、1998（平成10）年、再び「十五番館」は、建設当初の姿を現すこととなった。再建後は、「Cafe de Kobe 旧居留地十五番館」として、多くの観光客が訪れる神戸のカフェレスランとして人気を集めている。

百年以上の星霜をへて、旧居留地都市景観形成地域の重要な核として、これからも長い歴史を刻んでいくことが期待されている。

（参考文献）「旧神戸居留地十五番館裏話」
資料・写真提供／株式会社ノザワ



2階の南面に面するベランダ。コロニアルスタイルで、柱頭飾りのある柱列が印象的

旧居留地通りストーリー

The Story of the Former Foreign Settlement of Kobe

海岸通の関電ビルから入り、東遊園地横を通り、神戸市役所の1・2号館の間を抜けて花時計線へ抜ける、北向き一方通行の筋。緑が多く、都心部とは思えない広大な敷地の東遊園地は市民の憩いの場所となっている。東遊園地は、外国人居留地を造成するにあたり、外国人専用の運動公園として造られた。また社交場もでき、1890（明治23）年には大きな2階建ての「神戸クラブ」が建設され、多くの外国人たちが集ったが、神戸大空襲で焼失した。

そのような歴史のある、旧居留地東側入り口である。



東町筋



市民のオアシスと 震災と復興のモニュメント

東遊園地

全国初の西洋式庭園として1868（明治元）年に開園。「1.17希望の灯り」など、震災と復興のモニュメントがあるほか、毎年行われている震災記念行事の会場ともなっている。神戸ルミナリエの最終地点。公園内にはレンガ造りの洋館のレストラン「神戸旧居留地 ヴィアブランシュ」があり、ハウスウエディング会場として人気。また園内にはモーツァルトの像も建っている。



「1.17希望の灯り」モニュメント

当時の最新設備を整えたモダニズム建築

日本真珠会館

神戸の地場産業・真珠産業振興のため1952(昭和27)年に建築された。真珠に好ましい光線を確保するため西からの光は入れない、建物内外部の配色などにも真珠加工に配慮されている。2003年には「日本モダニズム建築100選」にリストアップされた。1階ロビーには真珠産業に関するパネル展示や器具、資料などが展示されており、12月6～9日には豪華な「パールツアー」の展示がおこなわれる。



神戸市内を一望できる市民のランドマーク

神戸市役所

一番高い建物が1号館、その南側が2号館、東街筋をはさんで3号館、3号館別館、江戸町筋に4号館がある。1号館は、1989(平成元)年に、神戸市政100周年を記念して建てられた。24階には展望レストランがあり、市内～港を一望できる。神戸ルミナリエ期間中は開放され、上から鑑賞する人々で賑わう。



三宮南側にそびえる 高層タワー

神戸関電ビル

関西電力(株)神戸支店のビル。高さ170m(無線塔を含む)で、屋上からそびえる無線塔を美しい色のガラスのカーテンウォールで覆っている。「復興のあかり」を表現したライトアップを日没から23時まで行なっていて、12月1日～25日まで、クリスマスバージョンのライトアップがお目見えする。



日本で初めて登場した 花時計

花時計

50年前、当時の市長であった宮崎辰雄氏がジュネーブで目にした花時計を神戸にもたらしたのも。日本で初の花時計だ。花の植え替えは、1年で8～10回おこなわれ、その時々イベントや話題、季節をモチーフにしたデザインが登場する。

通りの名は、兵庫県の初代知事で居留地建設の責任者でもあった伊藤博文に敬意を表するということでその名がつけられた。

神戸地方合同庁舎前から、東西に走る北町通りまでの短い通り。神戸ポर्ट郵便局もこの通りにある。



伊藤町筋



自然界に近い風合いのエコロジカル建築

ダイヤモンドビル

この地で半世紀にわたり事務所をかまえ、住居として暮らしてきたダイヤモンドファミリーが、2004年に震災復興させた「DYRE108」ビルは、緑や石など自然界のものをふんだんに取り入れたエコロジカルな建物。アウトドアライフショップ「パタゴニア」、ナチュラルケア&ショップ「WELEDA」、フレンチ「BRASSERIE TOOTH TOOTH」がテナント。4階にはギャラリー「居留地108」がある。



旧ダイヤモンドビル



Gallery居留地108

☎078-391-3071

[受付] 10:00~18:00 (土日祝日休)

<http://www.dyre108.com>

- ・12/6木 18:00~
功刀文弘クリスマスライブ
「アイリッシュフィドルと共に」
- ・12/8土~10月
中国結び作品展 (管人鳳と生徒達)
- ・12/11火 18:00~
進藤五郎・エミコンサート
- ・12/14金 14:00, 18:00
高橋卓也ヴァイオリンコンサート
- ・12/15土~16日
上平梅径 書道展
- ・12/17月 書象会大阪支部 書道展



中国結び展



高橋卓也

道幅は狭く一方通行のストリート、江戸町筋。しかしこの細いストリートには神戸を代表する名店・企業が立ち並び。北から中華料理の名店「第一楼」、ハイシライスで有名な「グリル十字屋」。また南下すると1949（昭和24）年に倉庫として建設され今では数々のテナントが入る高砂ビルなど、見どころ満載なストリートである。



EDOMACHISUJI Ave.

お湯と健康 愛とやすらぎ 豊かな暮らしをつくる

ノーリツ

1951（昭和26）年、創業とともに「能率風呂」を世に送り出し、その後約半世紀、ノーリツは「お湯」をキーワードに、湯まわり生活設備機器を提供し続けてきた。また、環境問題にまっすぐに対面し、「きれいな地球を次の世代へ」継承するため、環境問題に対して、できるすべてのことに取り組むことが、企業としての最重要課題であると考えている。

人と暮しと地球にとって快適な世紀とするため、ノーリツは掲げたテーマに対し全力で取り組み、着実に実現を図っている。



NORITZ 神戸ショールーム **NOVANO**
 ☎078-393-2641
 神戸市中央区西町35（三井日生神戸ビル1F）
 【営】10:00～18:00
 【休】水曜 【P】契約駐車場有
<http://www.noritz.co.jp>

江戸町筋

旧居留地にふさわしい 洋食の老舗

グリル十字屋

昭和8年創業。初代が雲仙のホテルにてオランダ人シェフより学んだ西洋料理の数々を、大水害、空襲、大震災を経て、70年間守り続けている。なかでも人気のあるハイシライスはどこかつかしいような味。手間ひまかけた洋食をご賞味いただきたい。

☎078-331-5455
 神戸市中央区江戸町96ストロングビル1F
 【営】11:00～20:00（ラストオーダー19:30）
 【休】日曜・祝日



風格と夢とロマンあふれる街の個性派ビル

高砂ビル

第二次世界大戦後いち早く配給物資のセメント材料を確保し、江戸町百番のこの地に、新築ビルとして建設したのが1949(昭和24)年のこと。本業であった帽子の製造・関連素材の輸出入と保税上屋(営業倉庫)は、時代の流れとともに移り変わり、先々代会長のアイデアで、天井の高さが3.5~4m、現在でいう“ロフト”付きの貸事務所として1972(昭和47)年、不動産賃貸業を開始。今ではたくさんのテナントが入り、若者も訪れずスポットとして定着している。



Gallery 高砂小径

Gallery 高砂小径は若手クリエイターが個性あふれる作品を発表できる場として無料で提供。

昭和4年創業の帽子専門店

ぼうし屋 高砂小径

株式会社高砂商の直販帽子店。麻真田を縫製したオーソドックスな帽子から、本パナマ、ウエスタンハット、その他の各種男女帽子を展示即売。(一部紳士帽子はオーダーメイド可。)

☎ 078-331-1725

神戸市中央区江戸町100番

[営] 9:00~18:00

※土曜・日曜・祝日は13:00~18:00

[休] 不定休

<http://www.100ban.jp/>



未来のアーティストを育てるスタジオ

100BAN STUDIO

写真撮影やビデオ撮影、各種講習会、ピアノ演奏、個人演奏、バンド練習などの様々な音楽活動、またバレエやTAP、フラ、社交、ベリーなどのダンス等、多目的に利用できるフリースペースも。

☎078-331-1728

神戸市中央区江戸町100番

[営] 平日 9:00~17:00

<http://www.100ban.jp/>



こだわりを持つメンズのセレクトショップ

Liberte



ヨーロッパの一室をイメージした店内は、フランス・イタリアのハイブランドを中心にヴィンテージ感溢れる商品で構成されており、自分らしさをきっと見つけられるメンズのセレクトショップ。

☎078-331-3623

神戸市中央区江戸町100番

[営] 11:30～20:00

[休] 毎週水曜日(祝日の場合は営業)

<http://www.liberte100.jp/>



扉を開けると非日常的な空間…

突撃洋服店 神戸本店

突撃独自の価値観で集められた古着、雑貨の世界。ジャンル、カテゴリーに関係なく古着を楽しめる。また、レアなものや珍しいもの、30年代から90年代の個性的な色遣いとエレガントなデザインのファッションアイテムが揃っているんで、きっとピッタリの一着に出会えるはず。博物館にきたような気分でワクワクする。

☎078-331-6168

神戸市中央区江戸町100番

[営] 12:00～20:00

<http://www.totsugekiyofukuten.com>



主にイタリアンで 少しジャパニーズな バーキッチン

Edomachi 100BAN

国産ビールはもちろん、インポートも30種類。ワイン、焼酎、お酒も多数。フルバーでお客様のカクテルを…。コンセプトはイタリアの家庭料理を気取らずシンプルでおいしく。パスタやピザはもちろん、お酒にあう料理も多数。



☎078-393-8016

神戸市中央区江戸町100番

[営] ランチ: 11:45～14:00(平日)

バー: 18:00～23:00

(最後のお客様が帰るまで)

[休] 毎週日曜日・祭日

<http://www.100ban.jp/>

旧居留地のメインストリートが京町筋。神戸市立博物館、神戸らんぷミュージアム、日本銀行神戸支店など、神戸文化と経済の拠点として、ハイカラ文化を育んできた。かつて京町筋にあり、阪神・淡路大震災で全壊した名門・オリエンタルホテルは、明治、大正、昭和にわたり地元経済界のサロンとして愛されつづけてきた。現在でも、神戸の繁栄を築いた京町筋には、神戸の街の風格や格調の高さを窺い知ることができる。



国の有形文化財に登録された神戸の文化拠点



1935(昭和10)年に建築された旧横浜正金銀行で戦後この銀行が解体された後、東京銀行として利用。その後、神戸市の所有となり、1982(昭和57)年、神戸市立博物館としてオープン。京町通正面の中央入口の左右にギリシャ・ドリス様式を模した6本の半円柱が並ぶ荘重な外観。京町筋で最大規模の建物であり、昭和初期の名建築のひとつとして名高い。居留地時代この場所にはキルビー商会があった。平成10年に国の有形文化財に登録され、平成12年、市景観形成重要建築物に指定された。

京町筋

神戸市立博物館

☎078-391-0035

[営]10:00~17:00(入館は16:30まで)

[休]月曜

<http://www.city.kobe.jp/>



昭和2年の金融恐慌真っ只中に開設

日本銀行神戸支店



第一次世界大戦を通じて、神戸は日本最大の貿易港としての地位を築き、国際海運、造船等の近代産業が発展した。また、外国銀行の大半が日本における支店を神戸に集中させるなど、外国為替取引の中心地であったことから1927(昭和2)年に神戸支店の開設に至った。奇しくもこの年、金融恐慌が発生。開店は当初の予定日から約1か月遅れたというエピソードも残されている。

「あかり」文化を語る所蔵品は2000点を超える

神戸らんぷミュージアム

1999(平成11)年にオープンした「神戸らんぷミュージアム」は、日本国内でも屈指の灯火器やランプのコレクションを誇る。「あかり」の文化を語る上で、欠かすことのできない貴重な所蔵品の数は2000点以上にものぼり、これらの貴重な所蔵品を余すところなく公開している。ロマンあふれる旧居留地を散策しているようなイメージでつくられた「あかりのミュージアム・ウォーク」は、様々な時代のあかりやランプとの出会いを楽しめる。そして華やかな卓上ランプがそろう「文明開化のあかり」、日本の灯油用の灯火器を展示した「あかりをともし知恵」、ガス灯や電球のコレクションを展示する「あかりの大革命」、かつて神戸がマッチの輸出地として栄えた頃を思わせるオブジェなど見所は尽きない。中でもアール・ヌーヴォー芸術を代表するフランスの工芸家エミール・ガレの工房で作製されたランプなど、生活の中に息づく芸術作品は観る者を虜にする。ショップでは、オリジナルグッズをはじめ、各種ランプやキャンドル等、「あかり」にちなんだグッズが勢揃いし、プレゼントにも最適。



☎078-333-5310

神戸市中央区京町80番

クリエイト神戸2F・3F

【営】10:00～17:00(入館が16:30まで)

【休】月曜

(祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月28日～1月4日)

<http://www.kobe-lamp.com/>



「まちの顔」に贈られる 「神戸景観・ポイント賞」を受賞

デビス・パーキング

駐車場ビルでありながら、1階部分に店舗を配し、また質の高い外装材を用いることにより、まちなみの賑わいと連続性に配慮している。まちが個性的、印象的に映るのは、その場所に応じた「顔」ともいえるポイントがあるから。神戸市では、まちの中でキラリと光る建築物や美しいまちなみなどを表彰する「神戸景観・ポイント賞」を選定しているが、平成8年度を受賞作品でもある。一階には、ファッションブランド「L.L. Bean神戸」が入っている。

江戸、浪花、京と日本を代表する都市名と兵庫県の地名を並べた旧居留地の通り。大阪が、日本の中心に位置することからか、旧居留地の中心的な通りとして栄えた。神戸港開港間もない1881（明治14）年に建造された十五番館は、震災後修復されて、建設当時の様式を今に残す唯一の建造物。また文化発信の拠点となる神戸朝日ビルディングなど新旧の建造物が調和する。



浪花町筋

各国領事館としての
風格を残す

チャータードビル



1938(昭和13)年築のJ.H.モーガンによる建物(旧チャータード銀行神戸支店)で、数少ない当時の建築物。内部は、大理石貼りの吹き抜けと欄干の模様、折れ天井がかつての銀行ロビーの名残を残す。居留地時代は、英・スペイン・オーストリアの領事館として利用された。かつて、銀行1階ロビーであった場所には、

ZOY(ブティック)、E・H・Bank(カフェ)、2・3階にはネオクラシックなザ・チャータードスクエア(ウェディング・レストラン)が営業しており、南西と南東の角にはレトロな回転ドアが当時のまま今も残っている。



旧居留地を代表するインテリジェントビル 神戸朝日ビルディング

旧朝日会館は1934(昭和9)年、関西を代表する建築家・渡辺節氏の設計により神戸証券取引所として建築。戦後、米軍に接収されたのち、1953(昭和28)年より映画館に姿を変え、多くの神戸市民に親しまれてきた。重厚、かつモダンな設計思想を十分に生かし、現代の最先端技術を結集した最新鋭のインテリジェントビル。1・2階のピロティは、神戸ルミナリエなど様々なイベント会場として利用されている。地階にはミニシアター「シネリーブル神戸」がある。



「春の海」の作者・宮城道雄が産声をあげた 宮城道雄生誕の碑

1894(明治27)年神戸市生まれの作曲家・箏曲家。1929(昭和4)年に発表した名曲「春の海」は、フランス人女流ヴァイオリニスト、ルネ・シュメーと共に共演し、世界的な評価を得ることになった。1932(昭和7)年に日、米、仏でレコードが発売された。その



曲風に、西洋音楽の息吹を感じられるのは、幼少の頃、神戸のレコード屋の前で熱心に立ち聞きして覚えたことによると言われている。浪花町筋に生誕地の碑が建ち、毎日9時～5時まで30分おきに「春の海」のメロディが流れ宮城道雄をしのぶ。

このお店のバッグと出会う幸せ ATAO (神戸朝日ビルディング2階)

定番の市松模様のデザイン「ICHIMATSU LINE」をはじめとするクラシカルなバッグや、小物は、手作業でなめされたナチュラルレザーなどこだわりぬいた素材を使い、熟練の職人たちが手がけたもの。オーナーでありデザイナーの瀬尾訓弘さんがプロデュース。素材選びのストーリー、個性的なデザイン、そして使い勝手の良さは抜群で、きっとお気に入りが見つかりそうなお店。



ATAO

☎078-391-8666

[営] 11:30~19:00

<http://www.atao.co.jp>

港町神戸の歴史を物語る建造物 神港ビルディング



1939(昭和14)年に建造。石造りの外観と、神戸港を臨む屋上の塔屋が特徴的なアールデコスタイル。8階建ての建物のなかには、2つの光庭があり、そのまわりにオフィスが配置された明るく開放的な設計。いまま「港町神戸」に欠かすことのできない港湾船舶関係などのテナントが入居している。

幸せのエッセンスにあふれたお店

ラ・ヴィエルジェ・マリー

今年3月にオープンしたカフェ「ラ・ヴィエルジェ・マリー」。フランス語で聖母マリアを意味するこの小さなお店には、まるで天使が舞い降りてきたかのように、窓いっぱいにはやわらかい陽光が差し込む。チョコレートムースを繊細なグラサージュで包み込んだムース・ショコラ、旬のフルーツをたっぷり使ったタルトなど、どれも上品で味わい深い。オリジナルのフレーバーティーも香り高く、リラクゼーションと美容に効果があるエッセンスをブレンド。まさに幸福のひとつときを楽しむことができるお店。焼き菓子の詰め合わせ「天使からの贈り物」はギフトとしても喜ばれるはず。

☎078-321-3822

[営] 11:30～22:00

[休] 水曜

<http://www.la-vierge-marie.com/>



旧電電公社が 民間資本で建てた全国初のビル 三宮電電ビル

1954(昭和29)年に三宮電話局として建てられた。局内設備の充実を図るため、公社が民間資本を導入した初めてのビルであり、建物は公共建物(株)が建設、現在のPFI事業の先駆的合築ビルである。電話局として機能していたため耐震設備が整っており、阪神大震災でも解体を免れた。現在、1階にはブランド店やスイーツ店などが入居している。



居留地返還後、通りには名前がつけられたが、兵庫県内の地名がつけられた通りもあった。播磨町筋もそのひとつ。現在は、海岸通をはさんで神戸地方総務局前から、神戸朝日ビル西側までの北向き一方通行の通り。海岸通に面した「旧居留地6番」は、1907（明治40）年にオリエンタルホテルが建てられた場所。空襲で焼失し、京町に移転したが、神戸を代表するホテルとして親しまれた。



高級ブランド店が集まる

BLOCK30



播磨町筋から北側の仲町通りに面した一帯は「BLOCK30」。600台収容の大丸カーポートを擁するが、路面には、高級ブランド店が建ち並び、旧居留地地区の代表的なスポットとなっている。

大丸カーポート

☎078-333-3388

【営】9:30～21:30

播磨町筋

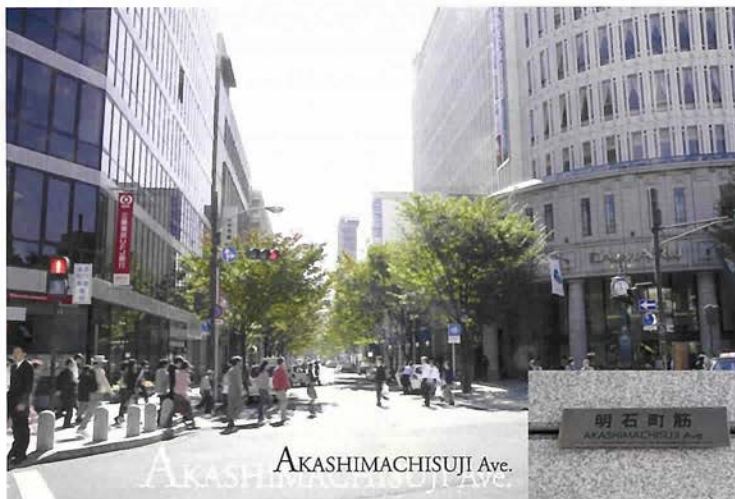


重厚な玄関が印象的

神戸居留地平和ビル

震災後、1998（平成10）年に完成した、地上9階がそびえ建つオフィスビル。居留地時代の洋風近代建築を思わせる重厚な入り口が印象的。1階にはブランド店が入居、華やかな雰囲気をもたらしている。

旧居留地の中でも最も賑わうストリート明石町筋。大丸神戸店にはじまり、歴史的建造物旧居留地38番館。向かいには日本毛織ニッケビルが建ち並ぶ。また、ブランド店も数多く並び、たくさんの人々で日々賑わっている。南へさらに進むと同和火災ビルや商船三井ビルなど近代建築が数多くならび情緒あふれる街並みになっている。



明石町筋



旧居留地の一角に聳え立つ 名門百貨店

大丸神戸店

旧居留地に今も残る近代建築を店舗として再生し、ブランド店を積極的に誘致し神戸旧居留地の再生を見事に果たした。旧居留地連絡協議会の事務局を大丸カーポート内に構え旧居留地連絡協議会の先導役となっている。本年は旧居留地連絡協議会が都市計画学会の最高賞である石川賞を受賞。神戸のイメージを見事に作り上げた大丸神戸店。日本とは思えない異国情緒あふれるストリートに、なくてはならない百貨店として、人々に愛されつづける。



☎078-331-8121

神戸市中央区明石町40番地

【営】10:00～20:00 本館・38番館アフタヌーンティーリビング・サザビー・コムデギャルソン・アメリカンラグジー・レシビ・ノジェス

11:00～20:00

周辺店舗・38番館アフタヌーンティーティールーム・ラテラスダニエル

11:00～21:00 9階、10階レストラン街

<http://www.daimaru.co.jp/kobe/>



旧居留地38番館

南側正面に4本のイオニア式円柱と東側面に7本の壁柱および石積み外壁等の石造意匠を有したアメリカン・ルネッサンス様式の近代建築。仲町通りに面して大正時代築の外壁が残されている。元々はナショナルシティバンク神戸支店として建設されたものである。現在は大丸 神戸店が所有し店舗となっている。

日本毛織 ニッケビル

コの字方型の平面をもつアメリカンスタイルのオフィスビル。1階の外装は御影石。建築当時は入口が1か所であったが、1階の南側を店舗として改装。有名ブランド店が軒を連ねる。また、地下にはニューミュンヘン倶楽部がある。



本場イタリアンバールを再現した人気のカフェ カフェラ 大丸 神戸店

本場の伝統を守り抜いたミラノスタイルのイタリアンバール。開放的でありながら格調高い空間を持つ、まさに「大人のためのカフェ」。“バリスタ”と呼ばれるエスプレッソ職人が丹念に抽出したエスプレッソコーヒーは豆の旨みが凝縮されていてひと味もふた味も違う。また、大丸 神戸店には「ワールドバリスタチャンピオンシップ(略称:WBC)2007」にて、日本代表として出場し世界45ヶ国の各国代表選手の中から、見事第4位の栄冠に輝き、また最もおいしいカプチーノを提供したバリスタに贈られる「ベストカプチーノ賞」も受賞した、宮前みゆきさんが勤務。大人気のカプチーノやカプチーノ・コン・カカオはエスプレッソコーヒーと細かく泡立てられたフォームミルクで、カップの中に「ハート」や「リーフ(葉)」等のデザインを描き、おいしい上に見た目にも楽しませてくれる。

☎078-392-7227
神戸市中央区明石町40番地
[営] 9:45~21:00
[休] 大丸 神戸店に準ずる

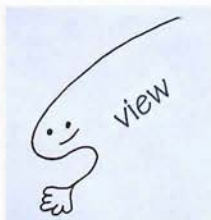
女性のためのフォトサロン

studio View

「今の自分をカタチに残す」と言う事だけでなく、その時の気持ちまでも、後に残していくものとして、未来の自分へのプレゼントに写真を残してみてもいい。スタジオはニッケビルの3階の奥にあり、まったく外からの目を気にせずリラックスして撮影できる。カメラマンも女性で、アンティークな家具などで内装されたスタジオで一生の思い出を!

☎078-894-3390

<http://www.s-view.jp>



同和火災海上ビル

当初から保険会社ビルとして建てられたアメリカンスタイルのビルで、外壁は御影石が貼られている。1階から3階にとどく縦長のアーチ窓は、ロマネスク調で仕上げられた美しいプロポーションをもっている。

商船三井ビルディング

海運業界が末會有の隆盛を見せていた時代に建てられた事務所ビル。渡辺節は、この建物の設計にあたり欧米への視察にでかけ、その影響もあって、アメリカン・ルネッサンス様式を基本にしている。暖房を強制循環温水方式にするなど、日本初の技術が多く採用されている。1階のルスティカ仕上げの石積みは、とりわけこのビルに重厚な印象を与えている。現在はアンティーク家具「ロイズ・アンティークス」が入っている。

海岸通の名所

大震災も乗り越えた巨大な近代ビル 神戸郵船ビル

旧日本郵船神戸支店として1918(大正7)年に建設された。当初は、現在の建物の上にさらに銅葺きの屋根と円形ドームを戴いていたが、神戸大空襲で焼失した。

大震災の前年、1994(平成6)年に、耐震補強工事がほどこされており、震災も軽い被害で乗り越えることができた。建築の中で優れた改修工事を行なった建物に授与される第6回BELCA賞を受賞している。1階にはブランド店が入っている。



重厚かつ秀麗な 装飾の近代建築

海岸ビルヂング

1911(明治44)年に建てられ、設計は、海岸ビルなどを手がけた河合浩蔵。竣工当時は、屋根部分に大きな装飾(ペディメント)があったが、戦災で失われた。1階部分の幾何学風の装飾など様式にとらわれない自由な意匠、玄関からすぐ上にのびた階段などダイナミックな空間デザインが特徴的。内部は、オフィスやギャラリーなどが入っている。



勝海舟の海軍構想のもと 志し高い若者が学んだ

旧海軍操練所跡

幕末、鎖国政策が崩壊したことにもない、勝海舟は、海軍兵学校と、海軍機関学校を兼ねた「海軍操練所」の設立を提案した。

完成した海軍操練所は学校と造船所なども備えた敷地約1万7千坪の大規模なもの。全国から、集まった約200人の青年が学んだ。

しかし、一部の生徒が反幕府の事件に関わったため、海舟は幕府の嫌疑を受けて操練所は閉鎖された。1年足らずの間であったが、坂本龍馬、伊藤博文、陸奥宗光などを輩出し、海軍の歴史にも大きな影響を残した。現在は錨と本の形の碑が残されている。



神戸港の門番 神戸税関

神戸税関は、1868(慶応3)年の神戸開港と同時に「神戸運上所」として開設された。1873(明治6)年に「神戸税関」と改称され、同じ年、初代本関庁舎が完成した。

阪神淡路大震災により、分館は復旧困難に、本関も大きな被害を受けた。建て替えにあたり、みなど神戸のシンボルを残してほしいという市民からの要望に応え、外観や時計塔、吹き抜けのホールなどを昔の姿をそのまま引き継いで修復された。優美な大正建築、そして広大な中庭が美しい。輸入や税関に関する展示室があり、一般に無料開放されている。



税関広報広聴室
☎078-333-3028

【営】展示室 9:00~17:00 土・日曜休